

特待生試験

〔国語〕

問題一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

四年前の秋、米国に留学した時、私はいったい何をどう勉強したらよいのか、まったくトホウに暮れていた。私の身分は客員研究員というもので、財団から生活費をもらって好きなことをやっていければよいのであったが、米国に來た以上この国にいなければできないことがしたいと思つと、話が複雑になつた。

私は大学では英語、英文学を学んだ。そのおかげで言葉で不自由することは人より少なかったかも知れないが、だからといつて英米文学の研究に没頭する気にもなれなかつた。私の英米文学に対する理解が、ビミョウなところへくると大学院にはいりたての米国人学生にも及ばないのは、しばらく雑誌しているだけでも明らかであつた。さしあたり洋スコット・フィッツジェラルドの小説を手がかりに、一九二〇年代のアメリカ文学を勉強しようとしてみたものの、何の喜びもわいてこない。フィッツジェラルドは日本で読んだ時よりAさらに遠くに見えるのである。

だいたい日常交際している米国人の気心もろくろく知れないのに、どうして小説の作中人物の気心が知れるであつつか。さらにいくら努力してみたところで、いったい英語で書かれた詩の韻律の美しさを、自分の血に響く感性的な美として味わえるであつつか。英語がわかつたつもりでいても、それは結局返り点と送り仮名つきで漢詩を読むのと同じような知的理解で、。本当の詩の味わい方とは程遠いのではないか。

そう思うと私は英米文学の片隅にとりついてつろつろしている自分が妙にこつけいに見えてきた。それは彼らの伝統に属し、その伝統は私を異質の局外者として冷やかに迎えるにすぎなかつたからである。そついつa 隔靴総痒の感のうちに日はほとんど過ぎて行く。私の限られた一生のうち、与えられた限られた留学の期間は日一日と少なくなつていく。私は一体何をしているのか。いやなぜこんな幸福な気持ちになれぬままむなしく時を 費やしているのか。

そつ思い暮らしているうちに、私はある晩何気なく世阿弥の『風姿花伝』を聞いた。するとそこには心にしみ透るような言葉があつた。私はいつの間にかその一節を音読していたが、そつするうちに私の内部にある言い表しがたい充実した ア がわきあがってきた。つまり私は世阿弥の言葉をよく理解することができたのである。単に 字面の上だけではなく、自分の血肉にひびく切実な言葉として。私は知らぬ間に少し涙を流していた。私は能をめつたに見なかつたし、世阿弥についても通り一遍のことを知っているだけであつた。しかし私はたしかにわかつたといつ手こたえを感じながら深い感動を覚えていたのである。

なぜこついついことが起つたかを、私はいぶかしく思った。「たとひ、人も褒め、名人などに勝つても、これは一旦珍しき花なりと、思ひ悟りて、いよいよ物まねを直ぐにし定め、名を得たらんに、事を細かに問ひて、稽古をいやましにすべし。されば、時分の花をまことの花と知る心が、真実の花に猶遠さかる心なり。……」などといつ部分が、なぜ心の奥底に染み入つてくるのであるつか。それはおそろしくこレが日本語で書かれているからである。世阿弥の生きていた イ 時代は五百年の歳月を隔てた過去の中に沈んでいるが、なおその過去と私をつなげる一筋の糸がある。そしてこの細い糸は、実は私と英米文学をつなげる知的好奇心のきまずなほどよりは、はるかにつよいのである。

私にとって自分の存在の核心につながる言葉はただ一つしかない。これは大切な発見であった。私の語学力は決して十分なものではないが、それでも私は英語を読み、書き、かつ話すことができる。ときには私は夢の中でさえ英語を使っていた。しかし、いくら熟達したところで、外国語はあくまでも外側から移植された言葉であり、決して私の存在をささえはしない。そう思った時『古事記』『万葉集』から今日にいたる日本文学の持続は、ひきつけないならぬ有機的な全体として私の眼の前に浮かび上がってきた。その背後にはなつかしい日本という国があった。しかしそこでは、古典は古典であるがゆえに疎んじられ、少数の専門家の研究の素材以上のものではなくなっている。ウ 私が、どうして『風姿花伝』から得た 名状しがたい喜びを手がかりにしてもっと生々しく古典に接していけないか。なぜなら古典とは私であり、私は現代に生きていながら同時に世阿弥の時代にも、近松の時代にも生きているから。

このように心を決めて、私は二年のちに日本に帰った。外側から遠望したときにはきりと リンカクづけられるように思われた古典の世界は、今日の荒廃した東京に住む私の眼には、しばしばとらえがたいもののように感じられることがある。しかし私は、そのたびに現代の騒音のただ中からあの『風姿花伝』の二節が凜々と響くのを聞き、それがやがて はな 鍊之丞の舞つ。景清をほつふつさせるのを経験する。そして私は、それが自分の限られた一生を、永遠という時間につながる貴重な時間であることを知るのである。

(江藤淳『文学と私・戦後と私』より)

(注) 1 スコット・フィッツジェラルド…アメリカの小説家。一八九六～一九四〇

2 鍊之丞…観世鍊之丞、能楽師。一八九八～一九八八

3 景清…平安末期の平家方の将軍平景清のことを描いた能

問一 傍線線部 のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部分 の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 傍線部分 A「さらに遠くに見える」とあるが、その説明として最も適切ものを一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 日本で翻訳を読んでいた時の理解に比べて、英語で読んでみると理解が不十分でさらに遠いものと思った。
- 2 作家の本国へ行ったことで、自分が作家を理解していないことがますます明らかになり遠いものと思った。
- 3 英語が堪能であるがゆえに作品が奥深いものであることに気付いて究め難く見えかえって遠いものと思った。
- 4 日本で初めて読んだ時の強い印象に比べて、改めて読んでみるとあまいな読後感しかなく遠いものと思った。

問四 傍線部分 B「本当の詩の味わい方とは程遠いのではないか」とあるが、筆者の考えを表すものとして最も適切ものを一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 知性を發揮しなければ読み味わうことができない
- 2 経験を積まなければ読み味わうことができない
- 3 外国人には本質的に読み味わうことはできない
- 4 生々しく接することはできて理解はできない

問五 傍線部分 a「隔靴絵痒の感」の意味として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 うらやましき
- 2 いらだたしき
- 3 あわたたしき
- 4 もどかしき
- 5 なげかわしき

問六 空欄 ア に入る最も適切な言葉を一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 欲求
- 2 覚醒
- 3 直観
- 4 理解
- 5 感情

問七 傍線部分 c 「それはおそらくこれが日本語で書かれているからである」とあるが、なぜそのようにいっていることができるのか。三十字以内で説明しなさい。

問八 空欄 イ には時代名が入る。漢字二字で答えなさい

問九 傍線部分 b 「有機的な全体」の意味として最も適切なものを一つ選び、答えなさい。こ

- 1 歴史の中に秘められた全体
- 2 諸部分が緊密に統一された全体
- 3 血肉にひびく身体的な全体
- 4 自分の存在の核心につながる全体

問十 空欄 ウ に入る最も適切な言葉を一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 いっぱい
- 2 それなら
- 3 ともあれ
- 4 さびた
- 5 けれども

問十一 傍線部分 d 「なぜなら古典とは私であり、私は現代に生きていながら同時に世阿弥の時代にも、近松の時代にも生きていくから」とあるが、筆者の思いはどのようなものであるか。最も適切なものを一つ選び、答えなさい。

- 1 古典は過去のもので

1

問題二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

〔語注〕^{よもやまばなし} 四方山話…世間話 腹がくちくなる…腹がいっぱいになる

コンパクト…小型できちんとまとまっている様

問一 傍線部 a～d について漢字はよみがなを、カタカナはその漢字を書きなさい。

問二 (A) (B) (C) に入るべき副詞を次から選び、それぞれ符号で答えなさい。

A、たちまち I、むしろ U、けっして E、どうも O、ゆっくり K、まるで

問三 傍線部 について

(1) 「加納さんの奥さん」の会話が、そのままの形で記述されている部分が一箇所ある。本文中からその部分を抜き出しなさい。

(2) 右のような記述を交えることによる表現効果として最も適当なものを次から選び、符号で答えなさい。
ア、論理性 I、叙情性 U、臨場感 E、立体感 O、緊迫感

問四 傍線部 「ねずみ」は一体どのようなことをしらないというか。説明しなさい。

問五 傍線部 はどのようなことを言おうとしているのか。その説明として最も適当なものを次から選び、符号で答えなさい。

- ア、文明の便利さによりかかった人間が、いつか自然に復讐されるのではないか。
- イ、自然を便利なように加工する人間の文明の力は、すばらしく、誇らしいものである。
- ウ、加工食品を食べ過ぎたがために、その害悪があらわれ、いまに健康をそこなうのではないか。
- エ、人間は動物と違って、自分のつくりだした文明によって、ますます発展していくだろう。

問六 本文を四つの段落を分けるとすれば、どこで分けるのが良いか。第二、第三、第四段落の始めのそれぞれ三字を答えなさい。

問題三

次の作品の作者を語群の中から選んで記号を書きなさい。

- | | | | | |
|-------|--------|---------|---------|---------|
| 1 氷壁 | 2 バカの壁 | 3 日本沈没 | 4 複合汚染 | 5 人間失格 |
| 6 三四郎 | 7 羅生門 | 8 国家の品格 | 9 二十四の瞳 | 10 白い巨塔 |

〔語群〕

- | | | | |
|---------|--------|---------|-------|
| ア 小松左京 | イ 山崎豊子 | ウ 井上靖 | エ 太宰治 |
| オ 夏目漱石 | カ 藤原正彦 | キ 芥川龍之介 | ク 壺井栄 |
| ケ 有吉佐和子 | コ 養老孟司 | | |

問題四 次の傍線部分の漢字に振り仮名をつけなさい。

- | | | |
|-----------------|--------------|---------------|
| 1 続けるように促した。 | 2 自由を束縛された。 | 3 血液が凝固する。 |
| 4 心身を鍛練する。 | 5 塗装がはがれる。 | 6 何か魂胆があるようだ。 |
| 7 一点差で惜敗した。 | 8 交通法規を遵守する。 | 9 予算折衝の会議に出る。 |
| 10 困難を克服して成功する。 | | |

問題五 次の四字熟語およびことわざの、に当てはまることばを入れ、その言葉の意味でもっとも適切と思われるものを選んで記号を書きなさい。

- | | | | |
|---------|-----------|----------|---------------|
| 1 疑心 鬼 | 2 面楚歌 | 3 傍若 人 | 4 主 転倒 |
| 5 二束 文 | 6 亀の甲より年の | 7 藪をつついて | を 出す |
| 8 の耳に念仏 | 9 能ある鷹は | を 隠す | 10 待てば 路の日和あり |

〔意味〕

- ア 周囲がすべて、敵や反対者はかりで、だれも助けてくれる人がいない孤立した状態
- イ ものごとの順序や立場など、大切さなどが逆になること
- ウ すぐれた才能や知恵を持っている人は、普段はそれを隠し、みだりに人にひけらかさないこと
- エ いまはうまくいかなくとも、辛抱強く待っていればチャンスがくる、ということ
- オ 非常に安い値段のこと

- カ 年長の人の意見や経験は大切にされた方がいいこと
- キ しなくてもいいことをして、悪いことが起こること
- ク 疑い出すと、何もかもが疑わしく思えて、不安になること
- ケ 周りの人のことなど考えず、自分勝手に振舞うこと
- コ どんなに注意しても聞こうとしなかったり、効き目のないこと

問題六 次の熟語と反対の意味の熟語を書きなさい。

ア 分裂

イ 需要

ウ 濃厚

エ 貪欲

オ 苦手